

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 7 回 松阪市政推進会議
2. 開 催 日 時	平成 29 年 3 月 30 日 (木) 午後 1 時 30 分～午後 4 時 00 分
3. 開 催 場 所	松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
4. 出席者氏名	出席委員：村林守委員、酒井由美委員、佐藤祐司委員、高島信彦委員、中川昇委員、西岡裕子委員、平岡直人委員、松浦信男委員、三井嬉子委員、村田吉優委員、吉田悦之委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員 欠席委員：梅村光久委員 事務局：竹上市長、小林副市長、山路副市長、加藤経営企画部長、橋爪経営企画部次長、榊原経営企画課長、川上政策経営係長
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍 聴 者 数	1 人 (内、報道関係 1 社)
7. 担 当	松阪市企画振興部経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-22-1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・ 事項、議事録は別紙のとおり

第7回 松阪市政推進会議 議事録

1. 日 時 平成 29 年 3 月 30 日（木） 午後 1 時 30 分～午後 4 時 00 分
 2. 場 所 松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
 3. 出席者 村林守委員、酒井由美委員、佐藤祐司委員、高島信彦委員、中川昇委員、西岡裕子委員、平岡直人委員、松浦信男委員、三井嬉子委員、村田吉優委員、吉田悦之委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員
- ※欠席者 梅村光久委員

〔事務局〕竹上市長、小林副市長、山路副市長、加藤経営企画部長兼市長補佐官、橋爪経営企画部次長兼行政改革特命担当、榊原経営企画部経営企画課長、川上経営企画部経営企画課政策経営係長

1 市長あいさつ

竹上市長あいさつ

第7回松阪市政推進会議を年度末の大変忙しい中に開催させていただきました。市長に就任させていただいてから3月で1年6か月が経過しました。まもなく平成29年度が始まりますが、予算を編成したのが2回目となります。また、市役所の課の名称を変更し、15部局を9部局に統廃合した。異動人数も部局や課の名称変更を含めると1,000人を超えますが、実質の人事異動は587人です。規模としては、近年では大きいほうだと思います。この会議の事務局も異動により変更がありますが、来年度もご協力をお願いしたい。後ほど説明させていただくが、新年度から松阪市の目標は「新たな挑戦」である。職員の年初式では、昨日と同じ仕事をしていたらしばむだけ。新たな一步を踏み出して、やっと現状維持である。それを一步、二歩と踏み出して、いかに行政サービスをさらに高めていくかをテーマに事業展開していきたいと話をしたところである。本日は、皆さんから様々なアイデアをいただいて、行政に活かしていきたい。闊達なご議論をいただければと思う。

※松阪市政推進会議規則第5条により、会長が会議の進行を行う。

○ 会議の公開・非公開の決定

会長)

本日が第7回目の会議となります。平成28年度の最後の会議となりますが、本日もよろしく願いいたします。

早速ですが、本日の会議の公開・非公開を決定する必要があります。本日の議題は2つあり、松阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価についてと、平成29年度の主な取組について、竹上市長から事業の紹介をしていただく予定です。

一つ目は総合戦略の評価を外部にお願いするもので、公開ベースの話かと思えます。また、予算に反映された目玉事業をご説明いただきますが、すでに議会でも議論されています。

公開であれば、発言に気を付けていただくこととなりますが、内容的に公開で良いと感じています。本日の会議も公開させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(異議なし)

会長)

では、本日も公開で開催します。

2 協議事項

1) 松阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について

会長)

では、事項書に沿って進めてまいります。

事項書2の協議事項 1) 松阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局)

松阪市では、平成28年3月に「松阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少に対応するべく、総合戦略に掲げた将来像をめざし、4つの重点プロジェクトを進めており、国からの地方創生交付金を活用しながら取組を進めております。

総合戦略の推進にあたっては、数値目標や各施策の重要業績評価指標(KPI)の達成度により、取組の推進状況を把握するとともに、効果の検証を行い、中長期的な視野で改善を図ってまいります。

本日は、各指標の数値の状況と市内部の評価から検証をお願いいたします。

まず、資料①をお願いいたします。

こちらは、「松阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる数値目標や各施策の重要業績評価指標の達成状況をまとめたものです。

1ページには、総合戦略の数値目標である3つの指標を記載しております。

1つ目の「人口」は、現状値を平成27年の国勢調査の結果を置き、平成31年度の目標値に「現状維持」と設定しています。国勢調査は5年ごとに実施されることから、毎年度の数値は、住民基本台帳を基に自然増減と社会増減から推計しております。平成28年10月1日の人口推計は162,835人で、1年間で1,028人の減少がみられます。人口減少に歯止めがかかっていない状況で、自然増、社会増の両面から更なる取組が必要であると考えております。

2つ目は「合計特殊出生率」で、一人の女性が生涯に産む子どもの数の平均値ですが、現状値は平成25年で1.53人、目標値は三重県の目標値に合わせ1.63人としております。

平成 27 年に 1.55 人と若干ではありますが増加しており、目標値の達成に向けて更なる取組が必要であると考えております。

3 つ目は「現在の生活への満足度」で、現状値は平成 24 年度の 68.4%で、目標値を 70%としております。この数値は、市民意識調査の結果によるもので、現在の生活に「満足している」「どちらかという満足している」の合計割合になります。平成 28 年 3 月に実施した調査では、70.5%に達し、目標値を達成しておりますが、引き続き市民ニーズに沿った施策を展開し、市民が思う生活への満足度を高めていきたいと考えております。

2 ページ目以降は、それぞれの重点プロジェクトの数値目標と各施策に設定した重要業績評価指標を記載しております。

指標によっては、数値をはかれていないものもありますが、それぞれ担当課で評価しており、目標値の達成に向けて取組を進めてまいります。

時間の関係もございますので、説明は省略させていただきますので、各自でご確認いただければと思います。

続いて資料②をご覧ください。

この資料は、各自治体が地方創生を進めるにあたり、国から交付される「地方創生交付金」を活用し、松阪市が実施した事業に掲げた重要業績評価指標の達成状況をまとめたものです。

平成 26 年度から平成 27 年度への繰越事業として、プレミアム商い券発行事業や総合戦略策定事業など、9 本の事業を実施してまいりました。

また、平成 27 年度から平成 28 年度への繰越事業として、新たな学びの創造事業、学校読書室等支援事業の 2 本の事業を実施してまいりました。

それぞれの事業に指標を置き、目標の達成に向け取り組んでまいりましたが、大きく目標を達成した事業もありますが、達成できなかった事業もございます。交付金を活用した事業以外にも、定住促進や少子化対策、雇用創出など、様々な事業を展開しておりますが、評価結果を踏まえ、取組をブラッシュアップし、松阪市における地方創生に引き続き取り組んでまいります。

時間の関係もございますので、こちらも説明は省略させていただきます。各自でご確認いただければと思います。

簡単ではございますが、資料の説明とさせていただきます。

評価にあたりましては、委員の皆さまのご見識・ご経験を踏まえ、忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

会長)

事務局より説明がありましたが、設定された数値目標および市内部の自己評価について、ご意見をいただければと思います。

委員)

満足度は 70.5%とでているが、他市の満足度は出ているのか。三重県下で何位かわかるのか。

事務局)

この調査は、全国規模の調査ではなく、市民 5,000 人を対象に調査を行っているものでランク付けは難しい。特に松阪市の場合は、住みやすさの視点で満足度が高いのではないかと感じている。

委員)

現在の生活への満足度の目標値が 70%であるが、数字の根拠はあるのか。

市長)

本当は 100%を目指すべきであると思うが、5年スパンで現状よりも下げないことを目標にしている。人口もそうであるが、今よりも下げないということを目指している。人口に関しては、日本全体で減っているので難しい状況ではあるが、現状をなんとか守るという目標にしている。

委員)

これは何を聞いているのか。項目は多いのか。

事務局)

住みやすいかどうかを漠然と聞いている。総合計画の質問であるので、政策ごとに尋ねている。直近のアンケートでは、140 問程度を聞いている。5000 人アンケートでは、あなたは幸せかと聞いている。その後、何が幸せと感じているかを聞いている。いくつかの要因を判断材料としながら、全体として幸せと感じているかという問いかけをしている。三重県では、県民力ビジョンを策定するにあたりアンケート調査をしている。幸せ感を 10 点満点として、平均で 6.7 ポイントである。

委員)

他の市町よりも低い状況は把握できているのか。数値だけではないが、何を払拭していくのかが必要である。

市長)

幸せな理由の一番が健康である。関心が高いのが災害であったと認識している。

委員)

年代別でも把握しているのか。

市長)

年代別でも把握している。

事務局)

幸せと感じているのは 20 歳代が一番高いが、どの年代でも凹凸はない現状である。

会長)

満足度や幸せ度を世界的に把握しようという動きがある。その時の聞き方は、ライフに対するサティスファクションを聞いている。ポジティブな経験をしたか、ネガティブな経験をしたかを総合して点数化している。それと比べて、松阪のライフサティスファクションを分析したらどうか。ライフとは、英語だと人生に対する評価になるが、日本語では日々の生活と捉えられてしまいますので、国際的な設問と日本の設問では受け止め方が変わってくる。その点を分析していく必要がある。

今回の内部評価結果では、目標値を達成しているからではなく、行政として突っ込んでいけるようにする必要がある。目標値と捉えるより、何を表していくのか、次のアクションにつなげる指標の見方が大切である。

委員)

ホームページへの月平均アクセス数や余暇の充実度は下がっている。観光客は増えているのにアクセス数が減っているということは、関心度が減っているのではないか。無関心層を関心層に変えていく取組が必要である。

会長)

何か分析はしているのか。

事務局)

事業を比較しての分析はしていない。今後分析していきたい。

委員)

空き家バンクの利用について、子育ての環境面からのリクエストだが、空き家を購入するのではなく、賃貸契約できないのか。もっと住みやすく、気軽に定住に結びつくのではないか。

事務局)

空き家の利活用について、今後の参考としていきたい。

委員)

企業の誘致については、順調に増えている。既存企業への設備投資も増えているとの評価であるが、何か調査をしているのか。しているのであれば数値を示してほしいが、内部評価のコメントはどういう意味か。

市長)

新規参入企業は1社のみである。新規では10年ぶりである。既存企業が第2工場などを建てる場合でも立地協定を結ぶので、このような記述になる。

委員)

もう少し分かりやすく記載してほしい。

事務局)

内訳等を示し、記載については改めさせていただく。

委員)

住民協議会の活動に参加している人が3ポイントアップしている。本来、地域行事に参加している人はもっと多いと思うが、住民協議会の問題意識をどう捉えているのか。

事務局)

平成24年度に全43地区に住民協議会が設立された。徐々にではあるが地域に浸透してきている。活動そのものは、目に見えるイベントが目立っているが、最近では、買い物バスや高齢者への生活支援の取組など、生活課題に対する取組が始まってきている。実際の参加者はもっと多いと感じているが、活動の中身も変わりつつある中で、住民協議会の認知度や参加割合も高まってくると感じている。

委員)

自治会と住民協議会との整合性は、市としての将来的な方針はあるのか。

市長)

住民協議会は行政主導で立ち上げていただいた組織であり、地域課題を解決するために立ち上げていただいた。1年前の5000人アンケートでは、4人に1人が住民協議会を知っていると答えている。自治会はもともとある組織であるが、住民協議会や自治会などの役割が明確になっていないとの話をよく聞く。平成29年度に方向性を決めるために、地域に関する組織が同じテーブルで話をすることが必要だと感じている。行政としてどうしていくのか、平成29年度で方向性を示していきたい。

委員)

住民協議会にも自治会にも市から費用が出ている。ダブっているように感じる。

市長)

それぞれの組織に対して出す理由があり、その理由はダブっていない。全国的に民間と行政の境がなくなりつつある。行政でやってきたことが、人口が減少する中で今までと同じ規模のサービスは難しい。その部分を地域にお願いしていきたい。逆に、行政が手付けなかった部分に手を付けていくことも必要だと感じている。平成29年度から、電力の自由化に伴い会社を設立する。行政は、ごみを燃やし、火力発電を行っている。今までには買い取ってもらっていたが、会社を設立し、お金を産み出し、環境に使おうという取組をやっていく。昨日と同じ仕事をしていくのではなく、新たなことに着手し、住民サービ

スを維持していきたい。市民にお願いできるところはお願いし、役割を分担していきたいと思っている。

2) 平成 29 年度の主な取組について

会長)

ありがとうございました。

まだまだご意見はあると思いますが、次の事項に移ります。

協議事項 2) 平成 29 年度の主な取組の 3 事業について、竹上市長からご説明いただきます。

市長)

【組織機構改革】

地域振興局を企画振興部に位置付けた。

総務部と税務部を統合し、総務部とした。

健康ほけん部と福祉部を統合し、健康福祉部とした。

子ども施策を一つにまとめ、子ども局を創設した。

【新電力事業】

電力会社を設立する。現在、ごみの焼却施設にて発電し、2 億円程度の売電収入がある。発電した電力で公共施設の電力を賄い、余った電力を売電する。5000 万円程度の収入を見込んでおり、環境施策に使っていきたいと考えている。

【中小企業ハンズオン支援事業】

市内の中小企業から 1 社を選び支援していく。試作品にかかる原材料や資材の購入、システム設計、広報や展示会などの費用について、10 分の 9 を補助する。委託事業として、デザインや PR 映像の制作、販売促進などを行っていく。公開審査で 1 社を選ぶ。

【商業施設への公民館移転】

松ヶ崎駅から 650m の距離にある商業施設に公民館を移転する計画である。現在の公民館は駐車場が不足している状況である。人口が減る中で、すべての公共施設を維持するのは不可能であり、駐車場が整備され、バリアフリーが行き届いている施設を借りることにした。批判もあるが、対案もなく移転を選択した。

【平成 29 年度の主な子育て支援施策】

新健康センターにおいて、松阪版ネウボラを推進していく。施設整備や保育士の確保に取り組んでいく。子育てをするなら松阪でと言われるまちにしていきたい。

会長)

ありがとうございました。

大変意欲的な事業だと感じますが、これに対して何かご意見はございませんか。

委員)

ハンズオン事業について、特定の事業者を支援する面白い取組だと思うが、意図と出口戦略はどのように考えているのか。

市長)

地元の中小企業をインスパイアしたい。自社の製品や事業を見つめなおす機会にしてほしい。強みや弱みを見つめなおす機会としたい。支援する企業については成功してほしいし、選考に漏れた企業には次年度に向けて何が足らなかったのかを気づいてほしい。それが一番の目的。問題は出口戦略でもあるが、本当に1年間で成功するのが心配である。なんとか成功してほしいが、とりあえず1社を支援していく。

委員)

川崎市は何社も応援している。それを考えると、もう少し大きくてもいいのではないか。市役所にとってもビジネスを覚える良い機会になる。松阪市を豪商のまちにする仕組みにしてほしい。ぜひ上場できるように支援をお願いしたい。

委員)

コンサルティング会社があってもいいのでは。選び方も難しいのではないか。

委員)

素晴らしい取組であり、ぜひ「三方よし」の視点を入れて松阪らしさを出してほしい。市民目線や新しいブランディングを取り入れてほしい。

市長)

本当はたくさん支援していきたいが、初めての取組なので、行政側が対応できるかが心配である。どういうことになるかもわからない。行政側の勉強も必要である。とりあえず1社。まずは成功させたい。300万円の補助金では少ないかもしれないが、成功させるために手に手を取ってやっていきたい。成功すれば雇用の創出になると考えている。

委員)

1社だけではなく、10社、20社ぐらいにしないとインパクトがない。大きなトレンドを作って、松阪に行けば成功するというような感じにしてほしい。

委員)

製造業だけが対象か。

市長)

どの業種でも対応させていただく。

委員)

松阪らしさはあるのか。

市長)

公開審査をする中で、アイデアだけのものを採用するのは難しいと思っている。今ある製品をパッケージし直したり、販路の拡大に支援していきたい。松阪市が選んだ会社として信用していただき、販路を開拓していく。公平・公正に1社を選ぶことが必要だと思っている。

委員)

まずひとつ成功させること。何らかの形を作って年々大きくしていくことで良いと思う。きっと成功すると思う。

委員)

よってたかって産業を活性化させる仕組みが必要である。川崎市や熱海市でも似たことをやっている。行政職員の勉強にもなる。

最後はやる気があったらできる。行政は逃げ道を作ってしまう。最後までやり遂げさせることが重要である。

委員)

成功することによってどうなるのか。

委員)

税収が上がる。求心力も上がる。雇用も生まれることになる。

委員)

企業として使えるのが300万円。企業側は300万円で何ができるのか考える必要があるが、行政の補助金は制約が厳しい。1社に決めるのは難しいのではないかと。松阪らしさが入るといいが、金額が小さいので松阪市からの付加価値を付けるほうが良い。松阪市の支援がプラスαになるはずである。

委員)

2年目に向けて、川崎市のやり方を研究したらどうか。それをマスターしてはどうか。

委員)

松阪市から販路を開いていくことが大切であると思う。

委員)

地方に力を付ける意識を持つことが大切である。

委員)

競争意識を高めていくことも必要ではないか。

委員)

松阪市として、観光や豪商のまちらしさを出してほしい。。大台町では地域おこし協力隊に取り組んでいる。観光や地域づくりに活用できないか。

市長)

観光について、今年は「ポップ」の段階。人づくりが大切だと感じている。そうしないと観光が面白くならない。サインも含め整備が必要である。

事務局)

地域おこし協力隊については、松阪市でも研究したことがある。全国の事例を見ると、必ずしも成功に結びついているかという一概には言えない。人の問題でもあるが、犯罪に結びついた事例もある。全国的な事例を集めながら研究していきたい。

委員)

松阪市に広域的な観光を手動していただき、もう少し観光を派手にして伊勢とつながってほしい。

市長)

地域おこし協力隊については一度調べてみる。

会長)

ありがとうございました。

まだまだ意見はありそうですが、時間がきましたので、施設見学について事務局から連絡をお願いします。

事務局)

熱心なご討議、ありがとうございました。

このあと、今月 1 日にリニューアルオープンしました本居宣長記念館にご移動いただき、施設見学を予定しております。

吉田館長から館内をご案内いただきますので、よろしく願いいたします。

ご移動いただく前に、次年度の開催日程について連絡させていただきます。本日の会議資料とともに、平成 29 年度の開催スケジュールをお送りさせていただきましたが、次年度は 4 回の開催を予定しております。

日程調整をさせていただきましたが、より多くの委員にご参加いただける日程で開催させていただきますことをご了承ください。

なお、次回第 8 回目の会議を 5 月 22 日に予定しておりましたが、市長に急な公務が入りましたので、再度日程を調整させていただきます。

5 月 19 日（金）か 5 月 24 日（水）、いずれも午後 1 時 30 分から開催を予定しておりますが、ご都合はいかがでしょうか。

《日程調整》

会長)

どちらの日も出席者が少ないようなので、別の日で再度調整させていただきます。事務局から改めて通知させていただきますので、よろしく願いいたします。

事務局)

皆様の任期は平成 30 年 2 月 1 日までとなっております。次年度も引き続きよろしく願いいたします。

それではここで、本年度をもって小林副市長が退任されますので、ごあいさつをさせていただきます。

小林副市長)

退任あいさつ

会長)

ありがとうございました。

事務局も異動がございますのであいさつをお願いします。

事務局異動報告)

橋爪経営企画部次長

榊原経営企画課長

会長)

ありがとうございました。

では、次回の開催については調整させていただきます。

詳細については、事務局から案内させていただきますので、よろしく願いいたします。では、ご都合がつかます方は本居宣長記念館にご移動をお願いいたします。

《施設見学》

本居宣長記念館

吉田館長より施設案内

《午後 4 時 終了》